

幼 兒 教 育

第十九卷
第七號

大正八年七月一日發行

近刊の子供繪雜誌に就て

——日本幼稚園協會六月常會の講演——

倉 橋 惣 三

子供の繪雜誌は幼兒教育上近頃の問題であると思ひます。子供に關する實際問題として、此位急激に社會問題になつたものは少ない、むしろ、實際の方が種々の理論を通りこして、行き過ぎてしまつた様な感があります。私の見當をつけた所だけでも三十四五種はありませう。その何れも毎月種々の装をこらして本屋の店頭をかざるので、一方編輯者の側になつて見れば實に苦心を凝らすのであります。これが子供の手に渡つて、しばらくすると反古になつてしまふ。趣味の高い、又教育

眼のある大人はたゞと口に、「子供の雜誌はいけない」と云ひ捨てる。そして其編者の苦心はあまり顧られないのであります。それが大人のよむ文學小説の様なものであれば、一寸したもので、すぐ翌月の文壇の批評の的になり、話題にのぼり苦心甲斐があるのですがこの幼年雜誌ばかりは本屋から子供の手にうつり、そのまま玩具箱から玩具箱へ葬り去られてしまふ、誰かが其苦心を認めて之を批判し、之を社會の問題とする様になれば、誠によいので、私自身も機會ある毎に新聞や

雑誌の人々にこれを勧めて居るのですがなか／＼
實行はむづかしい様です、もつとも元來これが一
つの營業品であるため賞讀する方はよいとしても
缺點を公表すると云ふ事になると他を妨害すると
云ふ心配がある事でせう。

兎に角、毎月多數發行されるこれらの繪雑誌が
何等批判も與へられず、顧られないで居ると云ふ
事は多大の苦心を拂ふ編輯者の側から云つても讀
者たる子供の側から云つても本意ない事であると
思ひます。

相手が子供でなく我々大人のよむ雑誌に於ては
實際上この批判は最も自然に行はれてゐる、即ち
各々の雑誌は店頭飾られて讀者自身の批評に待
つのであります。よい雑誌はよく賣れ然らざるも
のは残つてしまふ、この自然淘汰、社會淘汰の結
果から價値少ないものは勢ひ廢刊と云ふ運命に遭
遇する、これが一方出版者側には、致命的な打撃
ですが、しかしこれが一番よい、一番自然な批評

なのであります。

ところが、幼年雑誌に於ては、讀者たる子供自
身にこの批判力がなく、適當であつてもなくても
子供はたい目先きの違つたものをよろこびますし
又他面、營業上から言つても、小資本で經營が出
來るために、左程どし／＼賣れず大きな商賣にな
らずとも、廢刊に至らずどうか續けて行けると
云ふ事もある。そのために、近頃では、我々が幼
兒に對する要求から見ても隨分不適當だと思はれる
ものが無遠慮に刊行されて居り、また折角よく苦
心したものでも、一寸した編輯者のあやまりから
思ひがけない失敗をあらはして居る繪雑誌が少く
ないのであります。

扱私はこの近刊即ち六月號と七月號の繪雑誌
數十種に基いて私の氣持の許される範圍で無遠慮
に批評して見やうと思ふ。それには

○繪雑誌とは如何なるものか

と云ふ事から申して置きます。私の見解では、幼年繪雜誌は、玩具とおはなしとの一絡になつたものと考へられる、従つて、おはなしに對する教育的要求と、玩具に對する教育的要求とのこの二方面から批評を致さねばなりません、雜誌の方から云へば二重の影響を子供に與へて居る譯ですから其の及ぼす結果については余程重大に考へねばなりません。

おはなしと云つても目で見るおはなしともなり又其の繪を靜かに見て、母親に讀んでもらつて居る時には純然たるおはなしともなります、玩具として取扱ふ方面は主として本の形、裝釘、紙質、組合せ、印刷の仕方、色の配合などが關係するので、ことに近來は其内容は非常に玩具的となり、ことにある時期には丁度カラクリの様な仕かけに變繪、ひらき繪などが工夫をこらされて、平面な紙をひろげると、其の中に立體的のものが疊込まれてあつたり又貼付けてある繪をのばすとこゝに

立體的の舞臺面があらはれるなど、誠にこの傾向が盛でした、ごく最近はこれが漸く衰へた様に思はれます。それは、一方にこの方面に相當に工夫をこらして其行詰つた状態になつたのであるか、或は嘗つて私も耳にした事ですが、出版者相互の制裁であまり變つた事はすまいと云ふ申合せのためでもありませう。

また繪雜誌の玩具的である事は、必ず繪附録がついて居る事です、編輯者の苦心は本文よりもこの附録にあるのでこれによつて小さな讀者をいかに満足させ様かと工夫するので其多くは剪り紙又は種々の手工附録であります。又近來は、この手工附録を雜誌の本文の中に入れてしまつて、其の裏の頁には獨立した繪なり話なりがあるにもかゝらず、雜誌そのものを剪つてしまふ様に出來てゐる。これは一冊の本、又續いた話としては出來得ない事であるので實に繪雜誌が玩具として用ひられて居るためであつて、以前は書籍と繪、双紙と

が別々にあつたのであるが近來の繪雜誌はこの兩方を合したものを作らんとする傾向であります。

○繪雜誌の玩具的方面の問題

先づ以上の如き玩具性があるために、我々の眼から見ると誠に無駄な骨折と思ふ事に編輯者が苦心して居る様である、寧ろ邪魔な、また雜誌としての體裁を全く壞してしまつて下品なものにしてまで餘計な工夫をする、これは一面から云つて一つのもが本でもあり玩具でもありと云ふ二重の用途を充たす上からは一段の發達かもしれないが、しかし其苦心の結果、玩具として成功する事が實際上なかく困難な事です。一枚一枚の繪のこしらへ方だけでも其の内容を適當にえらぶには可成の苦心を要するものであるのに、これがひらき繪、變り繪かはりとなるために更に苦勞する、其の苦勞のためにかへつて失敗する事も少くない、内容の性質上、ひらき繪としなければならぬもの例

へば次々と人物がくり出されて來る話など（實例揭示）ではこのひらき繪、變り繪は適當であるが、かゝる事は先づ少くして多くの場合にその内容が全く無意味な事、又はむしろ有害な事に陥つてまでひらき繪のためにとらはれて居る事があります。

一體一つのもが次々に變化して行くと云ふ事は子供に時間的印象を與へるもので、隨つてこれは論理的に子供の頭がはたらくわけであり、一頁から次の頁に行くのに全然變化してしまへばその二つの頁の間に論理的の關係はなくてよいのであります、普通のかはり繪に見るごとく、一つの繪の一部分が、そのまゝ残つてその他の部分が變化する場合には、どうしても論理的にならざるを得ません。しかるに、變繪に於て、不意に妙なもの——残つて居る繪と關係のつかぬ——が出て來たのでは反て一種低級な興味は起るとしても子供の論理的方面の作用を損ふ事が少くない。（實例揭示）これはこの六、七月の繪雜誌に實に多く

○印刷の問題

見られます。折角他の方面に編輯者が苦心をこらして子供に適當な内容を撰んでも、變り繪にしやうと思ふ事のために、思ひがけない事をしてしまふ事は誠に惜しい事で、このひらき繪、變り繪のために子供の頭腦がどう訓練されて行くかは編輯者として充分考へなければならぬ問題であります。一層垢ぬけてしまつて、同じひらき繪でも二頁の繪面が四頁にひらく、その初めの二頁のものとの之を兩方へひらいた四頁の内容とは全く無關係でしかも四頁つゞきの所には之を用ひなければ出きぬ材料をとつてあるもの(實例揭示)などは上に云つた様な論理上の矛盾はおこる心配はない、しかし無理にかうひらく様につくらねばならぬと云ふ事は大して必要がありませんまい。

要するに、あまり此の繪雜誌の玩具性に重きをおくために、大切な内容が支配され、損はれてしまふ傾向は注意せねばならぬ點であると思ひます。

繪雜誌の玩具性に附隨しておこる問題は、其印刷で、これが單純に一つの話、其内容の徹底をはかるためよりも、彩色の方面から支配されてゐます。甚しきは内容のための彩色印刷でなしに、色を彩るために内容をえらんで來る事まで起つて來ます。尤も編輯者の立場から考へれば低廉な定價で毎月出す事であるから高價な繪具は用ひられず隨つて其の色が我々大人の藝術的の見地から見てきたないと云ふ事があつてもそれは攻撃する事は出來ません、けれども、いかにわるい繪具を用ふるにしても、繪雜誌は其の内容を讀むものであり又其の色を見るものであると云ふ事に意を用ひこの目的に重きを置くならば、たゞ、色をベタ／＼と塗ると云ふ事をせずに、も少し、上品にする事が出来るであらうと思はれます。

ことに印刷の方から云へば大抵の雜誌は四度刷

り(四種の色を用ふ)が多い、しかも其の四色をまた種々にかけ合せて多くの中間色を出し、この色のかけ合せを自慢する様になり必要もない所まで色をぬる事が起つて來ます。これを西洋で子供に與へるものと比べて見ますと實に大變な差があります。西洋では、一つの定めた内容の目的の方から色の方を支配して行くので必要な所に必要な色だけを用ひて居ります、例へば初夏の野に、女の子が遊んでゐる、すると其の女の子のリボンに赤が必要ならば其のリボンの所だけそれも極く一點の赤を用ふる、印刷上の費用から行つても手間から云つても全頁を彩るも一點に着色するも全く同じであります、其の繪の主意目的を重する所から惜しみなく彩色しないのであります。ところが我が國の、繪雑誌は實に惜しみなく彩色するのでそのために、しつこく穢く、色と色との配合から來る美感などが實にかけてゐます。中には淡泊と彩色してゐるものないではありませんが大抵、現

今の繪雑誌が陥つてゐる通弊はここにあるとも思はれます。

この彩色の濫用は、遂には文字を印刷する時にその地までも濃い色でぬりつぶすと云ふ事にまでなつて來ます、字を入れる以上、その文字はよく讀めるように、はつきりと印刷すべきもので、ことに子供自身がよんだり、時には祖父母がよくお相手になつてよむことですから、文字の鮮明と云ふ事は子供の雑誌としては、かくべからざる要點であるのに、これさへも失つてしまふ事は全く困る。ことに甚しきは其文字にまで繪具を用ひて、色の地の上に色の文字をしかも小さな活字であらはしてゐる、ここに至つては全く子供によませるための文字のその目的を全く無視して居ると云はねばなりません。

○おはなしの方面の問題

繪雑誌におけるおはなしは大體二つにわけて

(一)おはなしを主として繪は挿繪^{さしえ}として用ひられて居るもの、(二)繪が主となつて居るもの、の兩方面に於て考へる事が出来ると思ひます。

一、おはなしを主としたるもの、

この方面では先づ一概に云へばよいおはなしが少くて内容が貧弱であると云ふ事でありませう。尤も編輯者の側になつて考へれば、讀ませるためには字を大きくしなければならず、且この種のおはなしでは繪は挿繪に過ぎないので、彩色をあまり用ひられずこれで頁を多くとつてしまへば全體が淋しくなつてしまふと言ふ所から話を短かくしやうとする、そのためにつまらないものになつてしまふのでありませうが兎に角、その内容は誠に貧弱です。扱其の内容を見ると大體次の四種に分けられます。

(イ)外國お伽噺の翻譯：これは勿論外國の名高いものを選んで來るのでありませうが、其の選ばれる材料が少ないためか、どうも同じ事が諸々

に持ち廻され繰返される事が多い、毎月出る三十余種の幼年繪雜誌に其の材料で翻譯からなるものは誠に似たり寄つたりのものが掲載される、またいかにその原作はよいとしてもこれをごく短いものに改作してしまふために、原作の價値を尊重してゐる餘祐がなく、同じ材料をとつて、ポツリ／＼と一少部分の改作が施される。そして少しづつ違つたものとなつてあらはれて來る、どれが本當か見當がつかないのであります。そこでこれを受入れる子供はどうであらうか、例へばここに同じ材料からつくりかへられた(翻譯して)五種の話の子供がいろ／＼の繪雜誌で讀む、その時全く別々の五つの話として受取る事が出来ればよいけれども元來が一つの原作から來て居る事であるから其の原作の臭其調子が何れの話にも残つてゐるので子供頭には全く別々のものとしては取扱かはれない、こゝに子供の頭を混亂させる事になるどれが本當であらうと云ふ疑問、したがつてそこに一種

のおちつきのない氣持が起つて來ませう。

一體外國の有名な**はなし**は一つのまとまつた藝術品であるので、これを自由勝手に分解し取捨する事はそもそゝ失敗の因で、ことに部分的に改竄する事はよくない事と思ひます。

(ロ)編輯者の作になるはなし……これを更にはしく分ければ(A)堅苦しきもの即ち教訓的のもの、(B)單純なる興味本位のもの、(C)作者が子供の世界を寫生せるもの、即ち事實を事實として話して居るもの、——となります。

(A)此の第一種のものとは謂ゆる寓話的で勸善懲惡の教をするもので子供の讀物としては第一流のものとなふ事は出來ません、中には子供の生活を實際にえがいて、それが自然に教訓的結果になる事もないではありませんまいがこの種の話の陥りやすい缺點は、どうも教訓を無理に押しつける嫌があると云ふ事です、何でもない事を教訓的につくり上げるので甚しきは話の筋には無關係な結

びを持つて來てまで教訓的にする、多くの場合にその結びには神様が出たり超人的な老翁などが出たりする、これは六月、七月號にも多いのであります、神様や白髪の老人や、かかる假定的のものも、之が神祕的な氣分を養ふと云ふ方面に用ふれば、必ずしもわるくはないのであります、ただ教訓的に話を片づけて行かうとするために用ふるので實に單調なものとなつてしまふのであります、(B)これは(A)の教訓的のものに比べれば、自然的で無理が少ないのであります、しかし、ただ子供を喜ばしたりおどしたりして彼等の瞬間的の興味を買ふうとするために、ひどく下品なものに陥つてしまふ、眞の滑稽味コミックではなくて、むしろ奇怪不思議な興味をねらつておる様で、全く何の事かわけのわからない事でした子供を可笑がらせ様とする傾向があります。今少し上品に、今少し其の興味を中心となる點に注意を拂つたらどうかと思はれます。

(C) この種の話即ち寫實的のやりかたは餘程發達したものと思ひます。それ故これは上手にすればなか／＼面白いので例へば六月號の某雜誌に「傘かゝ喧嘩」と云ふ話がありますが、これなどは餘程おもしろい寫實であると思ひます。新しい大膽な試みでこの種の話は充分骨を折り、よい材料をとれば、つくり話にくらべて一層サラ／＼と子供の興味に合する上によいものであると思ひます。

しかし以上何れにしても、も少しよい話が出さうである、どうも貧弱であると云ふ感をまぬかれません。

二、繪を主としたるもの

これは先づ繪をかいてそれを説明する種類のお話でこれがまた實際上なか／＼難しいのであります。これも説明の仕方に三種あると思ひます。

(A) 繪にかいてあるものを、そつくりそのまゝ、もう一度文字であらはず仕方で、例へば花の繪に「コレハハナデアリマス」とか二羽の鳥の飛んで居

る繪に「トリガ二羽トンデイマス」とかくのであります。

(B) 繪にかいてあるもの、心持になつて説明をかくので、例へば汗を拭いてゐる子供の繪に「オ、暑い」とかく、即ち内容をそこに出して來るのであります、これは(A)の方法に比してたしかに進歩して居ります、即ち繪のあらはず情的の心持を主とするので、この心持を一層よくあらはすためにこれが節かたのついた歌となつて來ます、これを極端に迄取扱つて一つ／＼の繪に各一首づゝ歌をかいて居るのが近刊の繪雜誌に見えて居ります。

繪の内容、其心持をあらはすために歌を用ふるならばよいのですがこれを(A)の場合で用ひて情の少しもはいつてゐない單なる説明(例へば、これは花ですと云ふ如き)を歌でして居るのがありますが、かうなると讀んで寧ろおかしい感がします。

(C) 繪は靜的のもので瞬間だけしかあらはしませんから、その繪の過去と未來とを言葉であら

すために、おはなしが用ひられます、例へば野原に立つて居る子供を大きくかいて、その子は今何處から来て、何處へ行くと云ふことをかくのであります。この方法は繪とその説明とが合して一つのおはなしになると考へられます。

以上三種の説明の仕方の大體を通覽すれば、一番必要でもあり、又説明として一番當然あり得べき形は(C)の方法であります。(B)に於てはその心持の説明が餘程暗示的サジェステイブである事が大切であまり詳細に限定的に其の心持の説明してしまふと、子供が其の繪によつて折角よびおこされた子供自身子供自身の心持を侵害する怖れがあります。(A)の仕方は全然不必要な事です。

繪の説明と云ふ方面から考へると、今少し繪とはなしと何れが主になつて居るかが明瞭でありたいと思ひます。繪の心持をうたふために歌がかゝれるならば、も少し繪を立派に上手にして、子供

が繪そのものを見て直接充分にその心持をおこし得る様になりたいと思ふ、どうも説明が濫用される嫌ひがある、ごく無遠慮に云ふ事が許されるならば繪があまり上手でないために文字で之を説明してその心持の代理をし之を補ふとする様に見える、しかも其文字は實際は補ひとならず其繪を損つてしまふ事が多いのです。繪そのものを一の藝術として考へればそこに説明的の文字をかき入れる事は可笑しい事です。(尤も日本風の趣味で掛物ウケモノなどには讚をかく事をしますがこれは一種の機智ツツを樂しむものでせう。)

そこで繪を繪として徹底させたいと云ふ事から繪雜誌における

○繪そのもの、問題

を少し考へて見ませう。どうも説明をしなればその繪が繪として徹底しないと云ふ感があるために繪其のものが説明的になつてしまふのが多い

のです。ある學者が「子供のかく繪は字の代りにかくのである」と申して居りますが、繪雜誌に於てはあまりにこの傾向が勝ち過ぎて一つの纏つた繪としての印象を與へる事がきはめて少なくなる繪雜誌の繪は大體二頁全體にかゝれた大きな繪と小刻みにした繪との二つに分けて考へられますがこの後者は一つ／＼の繪を次から次へとたどつて行くので、これは編輯の側から云へば子供が同じ一頁に永く眼をとめる様にと云ふ所にあるので、必ずしもこれは悪いとは思ひませんが、しかしかゝるおはなしの性質を充分にもつて次々たどつて行くものはそれとして、はなしにおもきを置き、繪は繪として思ひ切つて大きなのび／＼としたものを見得る様に、コセ／＼と小刻みをたどるものでない方がよい、あまり小刻みの繪をたどる様にはかりすると、子供は次々へうつつて行く即ちその話の筋をそれからどうなるかと云ふ方に氣をとられてしまつて、移氣になり、一つの繪を落ちつ

いて見て繪を中に讀み込む事、内へ深く見ると云ふ奥ゆかしい性情の發達を妨げてしまふ事になります。

○各雜誌の特色とする所

さて結論として、どうも此頃の繪雜誌が各々の特色とする所をはつきり持つてゐない様に思ふ。どれもこれも同じ様で、一雜誌が或る體裁をつくとその體裁がすぐ全體に行き涉ると云ふ有様です。何處に其雜誌の着眼點があるか其の編輯者の主旨がどう云ふ所であるか明瞭でありませんが、西洋では、雜誌の名をきいて其の編輯が誰であると云ふ所から、すぐその内容がわかる位ですが、どうも我が繪雜誌にこれがない、そこで選擇上誠に困るのであります。在來のものとして確に獨特の方針のたつて居ると見えるものは極く少いのであります。

各誌が普遍的色彩をおびる原因の主なるものは

その内容が季節及年中行事を主として之を子供の生活に又はお嘶に結びつける事にあると思ふ。各雑誌が何故今月ばかりの材料を撰ぶかと云ふ事は季節及年中行事から来て居るので、こゝに困る事は今の様に一ヶ月づゝ先に發行されては（即ち六月の初め七月號が出る）家庭で之を子供が見ると實際の季節と衝突を來すので母親などは少からず迷惑するわけです。

年中行事は子供の日常生活に勿論關係ある事であるに準ずるのは決して悪い事ではありませんがしかし、その採り方があまり在來の曆こよみに捉へられるために、どうも何となく新鮮な氣分が乏しいのであります。何か編輯者の方に「この繪」「この話」を書きたいと云ふ方針が確にあつてそれに年中行事を結びつけて行くのであれば無理もコヂツケも起らず、よいのであるが、そうでなくて年中行事の方が主體となるためにどうも何だか舊くさくなるのであります。尤も年中行事や社會行事にして

も桃の節句や端午の節句などならば、昔も今も左程かはりはありませんからよいでせう、けれども例へば七月號に殆んどどの繪雑誌にも題材になつてゐる「七夕」や于蘭盆の行事などは近世の子供にはやゝ縁遠い事で、しかも何れの場所何れの家庭でもする行事でもありますまい。ことに于蘭盆などの行事は書き方によつては實に子供らしくない淋しい氣分を起させる事がないとも限りません。どうも新鮮味が少ない嫌があります。極端な例を云へば某誌には丑の日として子供が鰻をたべて居る處を描いたり、又某誌には附録でしたが十二支がかいてありました、これなどは我々大人の間でもだんず／＼廢たれて行く事で、これでは老人雜誌の様になります。

同じく季節、年中行事を取扱ふにしても之を理科的にとらへて行かうと云ふ新しい試みも見られます。たとへば五月雨さみだれと云ふ事を、何故かういふ自然現象が起るかと云ふ話にするので、この傾向

は當世風ではありませんが、しかしこれもあまり多くなると主智的に傾きすぎて娛樂本位でなくなり子供繪雜誌の主目的たる感情陶冶の方面からかけはなれる事になりませう。

○編輯者と子供

次に編輯者の子供に對する態度には種々ありませう、子供を小さなもの、つまらないもの、と見てたゞ之を茶化して居る様な態度も往々あります或は大人の見地から子供を見てゐるものもある。其の極端なものになると子供の生活を狂句や川柳せうりゅうの取扱ひ方にして、それをかいて居る。これをよむ子供は自分自身の生活を自分に見せつけられて居る事になりませう、又或るものは全然教訓的な立場に立つて、子供の過失をならべたてゝ、叱言を云ふ調子で編輯してゐるものもあります。何れも適當な態度とは思はれません。やはり子供の生活そのものをよく理解し、理解したばかりでなく、編

輯者自ら子供の生活を生活し得る人であり、又子供自身の生活の態度で編輯する様にありたいのです。終りに

○現在の繪雜誌を

如何にすべきか

といふことを少し申し上げたいと思ひますが、先づ(一) 社會的の一つの事業である以上はこの檢閱が何所かで行はれ、ばよいと思ひます。しかしこれも檢閱者にその人を得なければならず萬一檢閱者にして、いやに教訓的にのみ見る様なことがあるとすればやはり害ある事になりませう。それから

(二) これら多數にある繪雜誌を存分に競争させて見たらよいと思ひます。聞く所によればこの繪雜誌出版業者は相提携して居つて、紙數の増減、定價の問題何れも其の組合で協議すると云ふ事である。これは營業上の制裁と云ふ方面からは

よいであらうけれ共、雑誌そのものゝ發達と云ふ上から見れば望ましい事ではありません。このために有力でない雑誌が可成り有利な位地を占めて資本のどしどしはる雑誌社が微力者のために阻害される事がないとも限らぬ、雑誌そのものゝ積極的の發達が妨げられない様に、どん／＼よくなる様にしたいたいと思ひます。

(三) 時々各誌の内容の批判が行はれたならば適當であると思ひます。これによつて一層進歩する事になります。

(四) 幼稚園關係者と云ふ立場から考へると、次第に趣向を凝す事の甚しくなる結果幼少のものに適して居つた時代から現今は次第に年長のものにも適する様になつて來た、其範圍が廣まつたために素人見ではどうしても年長のものにも適する様にしたのは内容が充實した様にとられるので受けがよいそのためにこの傾向が盛になつて、幼児向きが減じて行きます。そこで純幼年向の雑誌が

出來ればよいと思ひます。

○家庭に對する注意

此頃の様に澤山繪雑誌が出る上は、この選擇はどうしても親がしなければなりません。必ず子供には買はせず、親自ら買つて之を子供に與へる様にしたいと思ふ。繪雑誌を賣る店について聞いて見ますと、子供自身がお金を持つて買ひに來る事が多いそうですが、これは誠に危険です、子供の選擇標準は誠にあてにならず、一寸の出來心で、ふと買つてしまふのであります、他の事ではなか／＼子供に金をもたせぬ嚴格な家庭が、本を買ふと云へば子供に小費をもたせて買ひにやらせ其選擇にまかせる事を仕勝ちですがこれは絶対に禁じなければなりません。扱、母親が選擇して與へる場合には、出來る丈け澤山の繪雑誌に目を通して二冊でも三冊でも(あまり多いのはいけませんまいが)、大體一定した雑誌を與へる様にするがよろし

い、そして甲なら甲の雑誌を少くとも一年間は繼續してよませるのがよいのであります、毎月とりかへて種々のものを與へると云ふ事は、多讀亂讀の弊以上、更に怖るべき結果、即ち子供の思想の内的混亂を來す事になります。(種々の趣味、感想にふれるために)それゆえ、よく其の年令性質に應じて適當と思ふものを選び、之を一貫してよませる様にすればその一貫することのために生ずる利益は多いのであります。

○幼稚園と繪雜誌

幼稚園としては、毎月出る繪雜誌を凡べて網羅したいのであります。そしてこれを如何に用ふるかと云へば、第一にこれが保姆自身の誠によい參考書となると云ふ事にあります。多少幼児教育に經驗あり識見ある人々にとつては、素人が見て何でもない事でも、非常におもしろく、又編輯者の苦心の點なども洞察し得るのであります。

のみならず、月々發刊されるこれら繪雜誌からつねに保育の内容そのものに刺戟を與へられ、材料にも方法にも新しい氣分をそゝがれて、保育内容の固定する危険及其の貧弱になりやすい空虚になりやすい所を償はれるのであります。先生が見るからには、どんな繪雜誌でも、善い悪いの差別なく見る必要がある、しかしそれを子供に與へるとなれば、これもやはり家庭におけると同じよく選擇して一定して與へるのがよいので、即ち多く買つたもの、中から選出して與へる様にするのがよろしい。

又、幼稚園ならば、其子供に與へるもの、外に一冊として與へられない雜誌でも、之を切りとつて案外よい保育資料がえられる事がある。裏の頁が子供に見せて不適當ならば之を裏打ちするなどよく、時に思ひがけないよい繪が、外の部分は子供に不適當だと思ふ繪雜誌の中にまぎつて居る事がある。(よく繪雜誌の中の繪を切つて額に入れ

て室内の裝飾にして居る所もある様ですが、如何に子供の室でも私はこの裝飾にはあまり感心しない、裝飾の額にはやはり思ひ切つた眞の藝術品を用ふる方がよい)

また繪雜誌を保姆がいろ／＼に工夫をして例へば其の中の話を作りかへたり或は繪をつくりなほしたりして自由に之を利用する事も出来る事とせう。

要するにこの繪雜誌は各方面に今一層の努力をして今以上に進歩させなければなりません。

(筆記……文責記者)

生けるものは盡く

周圍に一種の空氣をつくる

(ゲート)

橋の上から。

ふと、橋を渡りかゝる。荷船が今、岸についた。子供が、一人、二人、三人、四人、船に居る。十六七の男の子、十一二の男の兒、十位の女の兒、赤坊はその背にねむつてゐる。四つ位の男の兒、それに、色黒の父と母と。

船には砂を山の様に残んでゐる、板一枚が岸に渡された。砂は菰ではこばれる。父さんが棧橋わたつてエツサ／＼と行くその隙に、末の子は大きな砂掻き、そつといぢる、重い柄がわづかに動くと、その兒はニツコリ、うれしそふ。父さんと總領息子は運び役、母さんと二番目の子は掻きこせる役、女の子は子守役、末の子は棒切ふりあげて身體ばかりは忙しきうにお世話焼き。父と母と子と、家族が同じ仕事に一生懸命。彼の住居は竿竹一つで悪ひのまゝに水上を移り行く一艘の船。面白がる船の生活。涼しがるう船の生活。樂しがるう、父と母と子と一緒に。

梅雨の暗れ間の陽がキラ／＼と水面を照してゐる。

(六月某日…… T.K.)